



## 私たちの声を国へ届けよう

現場の声と数字・データの提供を組合員の皆様に求める

皆さん、ご安全に！村田きょうこです。3月になり、来年度の予算審議が衆議院から参議院へと移ってきました。すでに、2/7、21に資源エネルギー・持続可能社会に関する特別委員会で参考人質疑を行いました。他の委員会もそろそろ始まりますので、年末年始にかけてお聞きしたご意見をこれからの質疑に活かしてまいります。

## 現場の声と数字、データを村田議員へ届けよう



※写真手前から、川野副書記長、村田享子議員、中井書記長

2/28(水)に東京・友愛会館で開催されたJAM業種別部会政策責任者会議で挨拶しました。

国政報告とともに、今国会で議論される CCS 事業法案(二酸化炭素の貯留に関する法律)や水素社会推進法案(水素、アンモニア、合成メタン、合成燃料という炭素を出さない物質の推進法)について説明をしました。

また、賃上げを実現するために価格転嫁の推進が必要ですが、国会質問を通じて皆様の声を納得がいくように政府に届けるためにも、現場の声と数字やデータの提供を参加者へお願いしました。

## 脱炭素化を進めるには日本の技術が不可欠

2/7(水)、第213回通常国会になって初めての質疑を、資源エネルギー・持続可能社会に関する調査会で行いました。テーマは「エネルギー安全保障の確立に向けた論点」です。

| 村田議員の質問   | 回答者         | 回答   |
|---|-------------|--|
| 日本として洋上風力発電に力を入れようとしているが、日本製品よりも中国製品を輸入しようとしていることへの危機感が現場にある。なぜ、中国はグリーン産業に強いのか。 | 山本隆三<br>参考人 | <ul style="list-style-type: none"> <li>中国には、国内製造業を育てるという戦略があり、日本は遅れをとっている。</li> <li>洋上風力発電は部品が多いが、中国国内でサプライチェーンが完成しており、日本企業が対抗していくのはかなり難しい。</li> </ul> |
| アジアや途上国で脱炭素化を進めるには、日本の技術である水素やアンモニア混焼による火力発電が不可欠ではないか。                          | 久谷一郎<br>参考人 | <ul style="list-style-type: none"> <li>今あるエネルギー需要に対応しつつ、将来の脱炭素化に対応することが出来るのが、石炭火力発電への水素やアンモニア混焼技術である。</li> </ul>                                       |

## 2050年カーボンニュートラル実現には過渡期をどう考えるのか？

2/21(水)に資源エネルギー・持続可能社会に関する調査会で、参考人質疑を行いました。今回のテーマは「脱炭素社会の実現に向けた論点」です。

| 村田議員の質問  | 回答者         | 回答   |
|--|-------------|--|
| 2050年カーボンニュートラル達成には、過渡期をどう考えるのか。石炭火力発電へのアンモニア混焼率を増やすという考えはどう考えるのか。 | 秋元圭吾<br>参考人 | <ul style="list-style-type: none"> <li>カーボンニュートラルの目標達成には、合理的な排出削減を行うことが近道である。</li> <li>アンモニア混焼率を上昇させるには、製造過程で化石燃料への依存を下げながら、コストを低下させる必要がある。</li> </ul> |
| 各国がアンモニア合成燃料に関する開発投資をしている中で、日本の投資額は十分か？                            | 渡邊昌宏<br>参考人 | <ul style="list-style-type: none"> <li>各国の施策によりプロジェクトの動きは異なる。各国を注視しながらプロジェクトを創設する。</li> </ul>  |